

(様式) 平成25年度徳島県立阿波高等学校：「学力・学習状況」改善プラン

1 学力向上推進員 職・氏名 (省略)

2 学力向上検討委員会構成

職名	氏名
	省略

3 現状・課題

学力	本校には、概ね基礎学力を持った生徒が入学してくる。しかし校外模試などの結果を分析してみると、十分にその学力を伸ばしているとは言い難い。教師の教科指導力をより一層高め、学年団と各教科との連携を深めることによって、生徒の学力のさらなる向上を図る必要がある。
学習状況	家庭学習が十分でない生徒の割合が高い。またその一方で3年生では、受験勉強のスタートが遅れてしまったことで不安や焦りを感じていると回答する生徒も依然として多い。早期に生徒個々に望ましい学習習慣を定着させ、学力向上につなげていくことが課題である。
進路	進路希望は若干多様化しつつあるものの、多くの生徒が国公立大学への入学を希望している。しかしながら昨年度の国公立大学合格者数は延べ55名であり、数値目標を達成することはできなかった。今後は、さらに多くの生徒の第一希望が実現できるように、全教員が一丸となって取り組んでいかなければならない。

4 目標等

(1) 学力について

国語科					
重点目標：現代文および古典を理解するための能力や、論理的に自己の考えを表現できる能力を育成する。					
学年	具体的目標	数値目標	具体的方策	評価	改善点
1	①基礎的知識の理解と定着を図る。	①校外模試で全国平均を上回る生徒の割合の増加、または維持。	①-1 基礎的な知識の理解と定着を図るため、適宜小テストを実施し、不合格者には課題を与え、提出を義務づける。 ①-2 定期テストや課題テストの前の学習課題を提出させ、家庭学習時間を確保する。	①全統5月、37人 8月41人、1月13人。進研7月12人 11月15人、1月9人。	①テスト前の学習課題の提出は、100%提出しているが、学習で時間確保できない等。取り組みやすい課題を家庭学習の時間に努める必要がある。
				4・3・2・①	
2	①基礎学力の定着を図り読解力を養成する。	①校外模試で全国平均を上回る生徒の割合30パーセント以上。	①-1 基礎的な知識の理解と定着を図るため、適宜小テストを行う。 ①-2 教材の工夫を行うなど、読解力の養成に資する授業を展開する。	①全国平均を上回る生徒の割合は、24%だった。	①家庭学習時間確保され、本が読まれない。日々の実地を必要とする。生徒が多量の課題をこなす必要がある。
				4・3・②・1	
	①応用力を高め、入試問題に対応	①大学入試センター試験の校内平均点が全	①-1 読解力をさらに向上させるための授業を展開し、得点力の向上を図る。	①全国平均点との差は、-6.47点だ	①古典の難化があるが、古典の読

3	きる実力を養成する。	国平均点を上回る。	②-2 授業時に小テストを実施し、語彙力や文法力、句法力のより一層の充実を図る。	った。	解力を伸ばすために、文法指導や句法の指導等に古く必要がある。
				4・3・②・1	

地歴・公民科					
重点目標：社会の成り立ちや諸課題について関心を持たせ、それらについて自ら考察する資質を育成する。					
学年	具体的目標	数値目標	具体的方策	評価	改善点
1	① 学ぶ意欲を高め、基礎学力の定着を図る。	① ノートや課題等の提出率100%。	① 定期考査前に学習課題を準備し、提出させる。	① 提出率96%。 4・③・2・1	① 未提出者への働きかけを徹底する。
	② 現代社会のさまざまな課題について関心を持たせる。	② 現代社会のさまざまな課題についての自由研究の提出率100%。	② 現代社会のさまざまな課題について、テーマを設定し、自由研究を作成・提出させる。	① 夏休みの課題である税の作文を提出させ、提出率90%だった。 4・3・②・1	① 未提出者への指導を徹底し、提出率向上を図る。
2	① 基礎的な学力の定着を図る。	① 校外模試で全国平均を上回る生徒の割合の増加または維持。	① 定期考査や校外模試の分析を行い、その結果を授業にフィードバックすることにより、より質の高い授業を展開する。	① 進研11月18.5%、1月22.2%、2月35.1%であった。 4・③・2・1	① 割合は増加傾向にあるが、向上した層も減る傾向がある。定着を促すために、定期的な学力の確認を行う。
	① 基礎的な学力の定着及び、考察力の向上を図る。	① 大学入試センター試験の平均点を前年を上回る。	① -1 生徒との面談や模試の結果分析を綿密に行い、生徒に応じた授業を工夫する。 ① -2 現代社会の諸課題に関心を持たせるとともに、小論文等にも対応できるような題材の提供や問題演習を行う。	① 全国平均を上回った生徒数は55人で、昨年度(70人)を下回った。 4・3・2・①	① 夏休みの中間学習が、下の改善基礎をも業間も確力させ

数学科					
重点目標：数学の原理や法則を体系的に理解し、それらを積極的に活用できる能力を育成する。					
学年	具体的目標	数値目標	具体的方策	評価	改善点
	① 学ぶ意欲を高め、基礎	① 基礎学力の徹底を図る。数	① -1 毎日の課題（日々題）と学習習慣の課題で、基礎の反復	① 苦手と答えた生徒は	① -2 の確認テストが実施でき

1	学力の定着を図る。	学に苦手意識をもっていない生徒の割合が50%以上。 ② スタディサポートのB1以上の人数、進研模試の偏差値50以上と42以上の人数をそれぞれ維持する。	練習を徹底する。 ①-2 週末課題について、週明けに確認テストを実施する。 ② 7 限目の補習や休業中の補習で問題演習を行い、校外模試での得点力アップを図る。	29.9% (SS9月) ② B1(4月 76人 9月 58人) B3(4月 155人 9月 113人) 偏差値 50(7月 55人 1月 65人) 42(7月 140人 9月 139人)	なかったの年度は実施の進捗を吟味し、数理解が内容よくなるよう努める。
				4・③・2・1	
2	① 基礎学力の定着を図るとともに論理的思考力を伸ばす。	① 校外模試で1年1月と比較して、偏差値50以上の人数を維持し、44以上の生徒を50に近づける。	①-1 日々の課題とクリアの課題で反復練習を行い、基礎・基本の徹底を図る。 ①-2 定期考査や模擬試験の結果分析を綿密に行い、弱点に焦点を当てた授業を展開する。	① 50以上は1年1月は77人に対し、2年2月は58人。44以上は1年1月は129人に対し、2年2月は114人だった。	①-1 徹底がまだ不十分である。個々の生徒に合わせた指導とともに、課題の内容の改善を図る。 ①-2 事前、事後の指導を弱点のワンプォイントに絞って、補習を用いて実施をする。
				4・3・②・1	
3	① 基礎学力および応用の充実を図る。	① 大学入試センター試験において、志望者の平均点と、全国平均点との差を5点以内にす	① 模擬試験の結果分析を綿密に行い、授業や補習により、生徒の学力の伸長を図る。	① 数ⅠAは+2.5点、数ⅡBは-5.5点だった。	① 数ⅡBにおいて授業の進め方を再点検し、問題を解く時間をもっと確保する。
				4・3・②・1	

理科					
重点目標：科学的事象への興味の喚起、基礎学力の定着を徹底し、思考力を高める。					
学年	具体的目標	数値目標	具体的方策	評価	改善点
1	① 高校理科における学力の定着を図り、学習意欲を喚起する。	① 問題集や課題の提出率100%。	① 家庭学習を行う習慣を身につけさせ、基礎・基本を繰り返して演習することができるように、問題集を活用したり、学習プリントを配布したりして、生徒の学力の伸長を図る。	① 提出率平均値は約95%だった。 ④・3・2・1	① 家庭学習に問題集やプリントを活用した。結び、力向上に積極的な取り組みを推進したい。
2	① それぞれの科目において、学習意欲を喚起し、現象の理解を深める。	① 各科目の授業において、生徒が主体的に授業に参加し、ICTを活用した授業を行う。年間5回以上。	① 各科目の授業において、演習や実験を通して、生徒が主体的に授業に参加し、現象の理解を深める。興味を喚起する。	① 化学では演習・実験を行う生徒の興味を高めること。基礎目	① 教育課程が変り、授業内容が精選された。授業内での精選やICT

				は、単位数が少なく1～2回程度しかありません。	用した授業を行いたい。
				4・3・②・1	
3	①各科目において、知識の定着とそれと科学的考察の力を高める。	①センター試験において、全国平均を上回る。科目の割合は前年度より。	①-1 定期考査や模擬試験の結果を参考にしながら、生徒の弱点を分析し、授業展開を行う。 ①-2 特に理系志望者には、早い段階で、将来の学びと連結し、科目内容を捉えさせ、学習意欲のさらなる喚起を図る。 ①-3 必要に応じて特別補習や学習の機会を持つことで、生徒の理解を助ける。 ①-4 早朝・放課後補習の内容をさらに充実させ、二次試験に対応できる力と、生涯にわたって学び続ける事のできる身につけさせる。	①センター試験全国平均より34.9%、本年度は26.1%の目標を下回った。	①教科全体とし、放課後と朝・放課後の補習が、付いた。学力的に、基礎力をつけたい。
				4・3・②・1	

英語科					
重点目標：英語学習への意欲や関心を高め、自主的・主体的に学習に取り組む態度を身につけさせる。					
学年	具体的目標	数値目標	具体的方策	評価	改善点
1	①英語の基礎・基本の定着を指し、語彙力をつける。	①単語・熟語テストで平均点70点以上。	①-1 毎時間、単語帳を使って、音読する時間を設け単語の定着を図る。 ①-2 毎週小テストを実施し、不合格者には、再試験や課題を与え学力の補充を図る。	①-2 単語テストの平均点は78.2点だった。 4・③・2・1	①小テスト直前まで生徒が集中するたは、至らないうちに継続して指導が必要がある。
2	①英文読解力を伸ばすため、語彙や文法・語法の知識を増やす。	①小テストの平均点70%以上。	①単語テスト、文法・語法テストを週1回ずつ行う。また不合格者には追試や個別指導を行い、学力の拡充を図る。	①小テストの平均点は、68.8%だった。 4・3・②・1	①中間層以下の高な学習意欲を計画するよう工夫する必要がある。
3	①英語力の完成を図り、対応できる実践力を養う。	①リスニングを含めたセンター試験の全国平均点と、校内平均点との差を10点以内にする。	①授業において、基礎基本の結果を徹底的に分析し、模擬試験の結果を参考に授業方法を改善策を練る。	①習熟度クラスは全国超えできた。 4・③・2・1	①センター試験は基礎力が、公立大学に力をつけるのが、今後は二次試験に力をつけるのが、今の課題である。

(2) 学習状況について

重点目標：					
学年	具体的目標	数値目標	具体的方策	評価	改善点
1	① 早期に望ましい生活習慣を確立させる。	① 平日の平均家庭学習時間 2.0 時間以上。	①-1 毎朝の SHR で家庭学習調査を実施する。それを担任・副担任でチェックし、生活状況を把握し、アドバイスや激励の言葉をかける。 ①-2 担任が必要に応じて適宜面談を実施する。 ①-3 生徒に進路意識を持たせるために、早期に進路講演会を行う。	① 家庭学習時間の平均は 2.1 時間だった。	① 学年集会、個人面談等を利用し、学習の重要性を強く伝える。
				④・3・2・1	
2	① 家庭での学習習慣を定着させる。	① 平均家庭学習時間 2.5 時間以上。	①-1 毎朝の SHR で「家庭学習時間調査」を担当、副担任がチェックする。学習時間、生活状況、また教科での学習の偏りなどについてコメントを記入し、声かけを行う。 ①-2 定期的に学年会を開き、生徒の学習状況の把握やその改善法について協議する。 ①-3 担任が必要に応じて面談を実施し、学習方法や進路についてアドバイスをを行う。	① 家庭学習時間の平均は 1.6 時間だった。	① 「学習時間調査」の有効性を活用し、個人面談を励む。
				4・3・②・1	
3	① 進路に対する意識を高め、主体的に学習させる。	① 平均家庭学習時間 3.0 時間以上。	①-1 生徒の進路を踏まえ、家庭学習記録を活用した面談を実施する。 ①-2 HR 活動、学年集会、進路講演会を通じて、生徒の進路に対する意識を高めるとともに、保護者との連携を深める。 ①-3 進路課と連携して進路検討会を充実させる。	① 家庭学習時間の平均は 3.0 時間だった。	① 一人ひとりの進路指導を個別面談で考える。
				④・3・2・1	

(3) 進路について

進路目標 (数値目標)	評価	改善点
① 国公立大学合格率が卒業生の 30 % 以上。 ② 進路保護者会を年間 3 回、進路だよりの発行を年間 2 回。 ③ 進路保護者会の出席率を 45 % 以上。	① 約 26 % だった。 ②・③は目標を達成できた。	① 授業や補習の充実に一層の力を注ぎ、学力の向上をめざす。
	4・③・2・1	

※評価欄の上段には、各具体的目標における数値目標の達成状況について記入する。下段には、達成状況を「4 十分できた 3 概ねできた 2 あまりできなかった 1 できなかった」で判断し、該当番号に○を付ける。